

教育目標

- 1. みずから学び考えて行動する生徒
- 2. 思いやりのある豊かな心をもった生徒
- 3. 健康で明るく勤労と責任を重んじる生徒

目指す生徒像

<学び方を身に付ける生徒>

何をどのように学ぶかを自ら決定し、高い学習意欲と学習の目標をもって生涯を通して使うことのできる「学び方」を身に付ける生徒を育成します。

生徒の実態

鹿骨中学校の生徒は、元気で素直な生徒が多い。学びに向かう姿勢としては、与えられた課題に対して、努力が見られる。また、ペア学習やグループ学習等への意欲は高く、学び合う姿勢がよい。一方で課題を解決しようとする粘り強さに欠ける面がある。自ら課題を発見し、自ら解決に向かおうとする姿勢が乏しい。学習にしっかりと見通しをもち、粘り強く学習し、自ら学習を調整する態度の伸長を図ることが必要である。

研究の目標

学び方を身に付ける生徒の育成

～ 鹿骨授業スタンダード(SJS)を活用した授業改善の取り組みを通して～

研究の方針

鹿骨授業スタンダード(SJS)は、「本時の目標」「学習活動」「振り返り」という授業の構造を統一して積み重ねることで、「学び方」を育て、学力向上を図る。これを生徒・教員の共有の取組として、授業改善に取り組んだ。

さらに「対話と体験」を重視し、主体的・対話的な学習活動、外部人材を活用した授業、区や都の教育資源を活用した授業を実践し、「学習意欲」を高める研究に取り組んだ。「単元指導評価計画」の充実を図り、育てる資質・能力を明確にすることも研究対象とした。

学力向上は、生徒が「授業が分かる」「授業が楽しい」と実感することが重要と捉え、年間1,000時間以上ある授業を充実したものにすることが、学力向上への最大の近道として研究を行った。

また、一人一人の生徒が安心して授業を受けられるよう、授業規律「あじみこし」をキーワードとして全ての授業で実践し、「学び方」の育成とともに整った学習環境の構築も実践研究の対象とした。

授業

授業規律編

本時の目標

あ あいさつ

学習活動

じ 時間

振り返り

み 身だしなみ

こ 言葉づかい

し 姿勢

あ あいさつを授業の始まりと終わりにすることで、生徒と教員と一緒に授業を創る風土を醸成します。感謝の気持ちも相互に伝えます。

時 時間をいつも意識することで、50分の授業を大切に育てます。生徒は開始前の着席を意識し、教員も授業の開始と終了の時刻を守ります。

身 身だしなみを整えます。身だしなみは心のあらわれと捉え、実技の安全も配慮し、授業に向かう姿勢から大切にします。

言 言葉づかいを意識して対話的学習や発表を行います。適切な言葉を使うことで、相手に分かりやすく伝えるとともに、違いを認めあう学習環境をつくれます。

姿 姿勢を正して、授業に臨みます。座り方などの身体的な姿勢や授業に向かう心の姿勢も整えます。

具体的な
取組

1 主体的・対話的な学習活動

2 外部人材の活用

3 江戸川区等の
教育資源の活用